



「還相回向（げんそうえこう）」を知っていますか？

下にご紹介する二つの文章は、50代で夫を亡くされた女性の随想です。この方のお母様が真光寺の門徒さんだったため、文章を見せていただく機会に恵まれました。

「夫の配慮」



破れた障子の穴を見ていると、
心まで冷え冷えとしてきます。
今朝は気合を入れて
食事の後片付けを済ませ、
障子の張り替えにかかった。

夫は亡くなる前年より何を思ったのか、
私に何でもするように仕向けた。

障子の張り替え、電球の取り替え、
電池の入れ替え、アイロンの修理、

自分は手出ししないで横で見ていた。

自分が亡き後、私が困らないように
配慮していたとしたら、

今日あることを見越して

私に自立させようとしたのか。

おかげで何でもできるようになった。

清々しい春の光が、

真白の障子に映えます。

あなた、ありがとう。

「ひまりのつづき」

公民館で一人暮らしの人を対象にした

「ひと日のつどい」があった。

八十余人の参加があり、

社協民生委員福祉委員がお手伝いをして

楽しい半日だった。

一月に急逝した夫も昨年までは、

ハーモニカを吹いて共演していた。

仲間たちは今年も出演している。

私は夫の写真を手に隅のほうで聴いた。

いよいよ出演だ。

なんと夫のために、

主のいないマイクスタンドが

一本立ててあった。

二十曲余りの演奏中、私は涙があふれ

皆さんのご好意が嬉しかった。

夫も一緒に演奏しているのだという

確信がもてた。



短い文章の中から、亡くなられたご主人と今も語り合い、愛情に包まれながら人生を送られている姿が伝わってきます。

浄土真宗には「還相回向（げんそうえこう）」という言葉があります。
＜亡くなられた方は、浄土で成仏された後、再びこの世に戻り、

苦しみに満ちた人生を送る私たちを救うために働きかけて下さる＞
という意味で使われます。そう考えると、日常の小さな出来事にも、その一つ一つに「還相回向」が隠されていませんか？